コミュニティーサロン　戸頭地区

婦人たちが清掃奉仕活動

▲通勤、通学路の雑草刈り

◀今回は思ったより少なかった空カン類

最近、自分たちの住んでいるところを良くするために、住民や団体が進んで地域社会に奉仕する活動が増えてきています。

今号で紹介する戸頭の婦人たちも、自主的、主体的活動として通勤通学路の雑草刈り、空カン拾い、バス停清掃などの環境美化運動を積極的に展開し、『住み良い地域社会づくり』をめざしています。

こうした運動が根付いたのは三年前から。「バス停の汚れがひどく、乗り降りするのに不快な思いをしている」という茶飲み話がきっかけで、「それならば」と、交通安全母の会や保健会のメンバーが中核となって始めたもの。

年に三日。春、夏、秋に清掃日を設けているほか、月に一回当番が部落内を巡回。汚れのひどいところをチェックして清掃か所を決めています。

谷川トヨさん、田辺カズさんは口をそろえ「私たちのやっていることに、少しでも多くの人たちが関心を示してくれれば」と言います。

さいわいその効果は顕著で、当初大袋に十五以上ものごみが捨てられていた戸頭頭首工広場では、七月十七日の清掃日には、空カンやごみらしいものは、ほとんど捨てられていませんでした。また、悪臭の漂っていたというバス停もすっかりきれいになり、利用者から喜ばれているそうです。

このように、ほんのチョットした地域問題を吸い上げ実践に移し、生活環境の改善に取り組んでいる婦人たちの努力は、高く評価することができます。

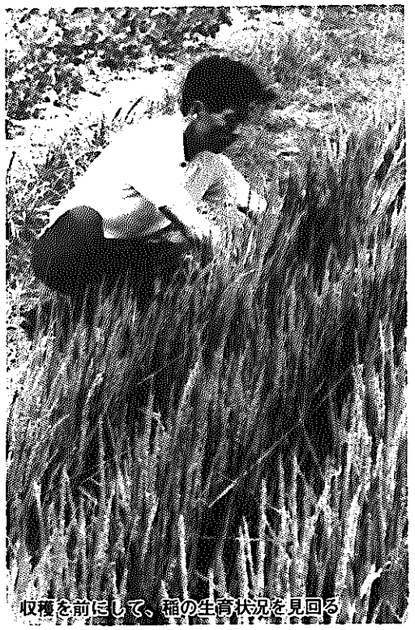
この道この人

和泉の歴史を一冊の本にまとめ自費出版

荒木宏さん（農業・和泉）

この本がもとに、郷土史に関心を持つ人が増えれば…と語る荒木さん

近所の人に古文書などを見せ、和泉の歴史を話す



収穫を前にして、稲の生育状況を見回る

荒木さんは、水稲を中心に約三・二㌶の農地をもつ、この地域の平均的規模の農家です。

忙しい日々のなか、郷土の歴史資料を集めて三十五年余り。その集大成ともいえる小冊子『ふるさとの考察・いづみ』を、七月に自費出版しました。

「資料提供など、多くのみなさんの協力があったからできたんです」と、荒木さんが手にするこの本は、A五判、八十七㌻で写真などをまじえながら和泉地区のおいたちや地域開発、また戦国時代から現在までの和泉をはじめ市内、国内の主な出来事が年表にまとめられています。

荒木さんが郷土史に関心を持ったのは、昭和十八年に家で古い書物や資料などを見つけたことから。以来、東奔西走して資料集めを行ってきました。

七年前、集めた資料を整理し、記録として残そうと五年間かけて原稿にまとめました。「主人は一つのことに夢中になる人なんです。夜遅くまで机に向かっている日が何日も続きました」と奥さんのイマさん。

編集作業は夜遅くまで続くことも

「みなさんから見てもらい参考にしてもらえば、また、これがもとで郷土史に関心を持つ人が増えれば」と、自費出版を考えたのが昨年の秋。それまでまとめた原稿を何回も手直しして印刷屋へ。

でき上がった本を手にした時はみなさんが見て、本当に参考になるのかどうか不安だったそうです。でも、ある人から「長い間こころがけていたから、これだけの資料を集めることができたんでしょうね」と言われたときは、胸にジーンとくるものがあったと、話す荒木さん。

この『ふるさとの考察・いづみ』の残部はあとわずか。希望者には無料でお分けしています。荒木さん（☎㉒三二七一）へお早めに。